



川口市長 奥ノ木 信夫氏

市長のメッセージ

本市の人口は約60万7千人で、政令指定都市を除けば全国で2番目に多い大都市として発展を続けており、「本当に住みやすい街大賞」では2年連続で1位に輝きました。

昨年、世界的流行となった新型コロナウイルス感染症に対しては、平成30年の中核市移行に伴い設置した市保健所を中心に、実情に応じた迅速な対応を行ってきました。

3大プロジェクトについては、昨年3月に第一本庁舎（新庁舎1期棟）が完成したほか、川口市立高等学校の施設整備やイイナパーク川口（赤山歴史自然公園）の整備についても着実に進めております。

今後も引き続き、市民の暮らしと健康を守り、市民の皆様が本当に住みやすいと実感できるまちづくりに取り組んで参ります。

はじめに

川口市は、人口約61万人、都心から10～20km圏内に位置する県内第2の都市である。東は草加市と越谷市、北はさいたま市、西は蕨市と戸田市、南は荒川を隔てて東京都に接している。

鉄道はJR京浜東北線、JR武蔵野線、埼玉高速鉄道の3つの路線が走り、高速道路は首都高速川口線、東京外環自動車道、東北自動車道が市内の川口ジャンクションで交差しており、交通利便性は極めて高い。

昭和8年に市制を施行、平成13年に特例市となり、平成23年に鳩ヶ谷市と合併、平成30年に中核市に移行した。中核市では保健所業務を市が行えるため、新型コロナウイルス対応も市の実情に合った対策をとることができている。

古くから鋳物の街として有名で、旧国立競技場の炬火台（1964年東京五輪の聖火台＝表紙写真）は川口の鋳物師の手で1958年に製作された。一昨年、61年ぶりに誕生の地である川口に里帰りし、10月から昨年3月にかけて川口駅東口駅前のキュポ・ラ広場に展示された。

都心へのアクセスの良さから、近年は住宅都市としての発展が著しく人口も増加を続けている。大手住宅ローン専門金融機関が選定する「本当に住みやすい街大賞」では、2年連続で第1位に選ばれた。子育て世代に優しい、交通の便がいい、都心に近いわりに不動産価格がリーズナブル、といった点が評価された。

3大プロジェクトが順調に進捗

市では3つの大きなプロジェクトを推進しており、いずれも順調に進捗している。

まず、平成29年12月から建設を進めていた市役所第一本庁舎（新庁舎1期棟）が完成し、昨年4月から新庁舎での業務がスタートした。地下1階、地上9階建てで、自然光を積極的に取り入れた吹き抜け空間が印象的な建物である。

新庁舎は、①免震構造を採用するなど「災害に強い庁舎」、②「植木のまち」を象徴する植栽など「環境にやさしい庁舎」、③ユニバーサルデザインを採用するなど「だれもが利用しやすい庁舎」などをコンセプトとして設計され、市民の利便性が大きく向上した。現在、旧本庁舎の解体が進められており、解体後に建設される新庁舎2期棟は令和6年度に完成する予定である。

2つめは、川口市立高等学校の開校。市立高等学



市役所第一本庁舎（新庁舎1期棟）

川口市概要

人口(2020年12月1日現在)	607,237人
世帯数(同上)	293,257世帯
平均年齢(同上)	45.0歳
面積	61.95km ²
製造業事業所数(工業統計)	1,324所
製造品出荷額等(同上)	5,328.1億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	3,388店
商品販売額(同上)	11,229.7億円
公共下水道普及率	87.2%
舗装率	95.0%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR京浜東北線 川口駅、西川口駅
JR武蔵野線 東川口駅
埼玉高速鉄道 川口元郷駅、南鳩ヶ谷駅、鳩ヶ谷駅、新井宿駅、戸塚安行駅、東川口駅
- 首都高速川口線 新郷ICから市役所まで約4km

校3校(川口・川口総合・県陽)を再編・統合し、平成30年4月に開校した。全日制課程と定時制課程があり、それぞれ1,440人、480人の規模となっている。昨年末には、バスケットボールコートや柔剣道場を備えたアリーナ棟2棟が完成した。

さらに令和3年4月には、県内では4番目、市内においては初の公立中高一貫校、川口市立高等学校附属中学校の開校が予定されているほか、8月には、400メートルトラック、サッカーコート1面を備えた人工芝のグラウンドが完成する予定である。

3つめは敷地面積約8.9haにおよぶイナパーク川口(赤山歴史自然公園)の整備。計画のテーマは、広域的な集客性に配慮した「水と緑のオアシス空間」の創出。平成30年4月に子ども向けの白い山型の大型遊具「フワフワドーム」、郷土川口の歴史・文化・自然を体感できる「歴史自然資料館」、市内物産を中心に地域の農を紹介する「地域物産館」を含む



平成30年4月に開校した「川口市立高等学校」

公園の一部(約3.6ha)がオープン。今後は、昆虫などが住める落葉広葉樹の雑木林からなる「環境学習の場」、高速道路を降りずに公園や地域を散策することができる、首都高初の「ハイウェイオアシス」の整備が進められ、全面オープンは令和4年度に予定されている。

☀️子育て世代が住みやすいまちへ

昨年4月、子育て世代のための2つの施設がオープンした。

一つは、子どもの発達に不安を持つ方の相談窓口「子ども発達相談センター」。「つながる、ささえる、ひろげる」の語尾を重ね、「るるる」と愛称が付けられた。発達相談、子どもの発達に精通した小児科医などの専門職による専門相談、親子教室、保育所等への施設訪問などの様々な事業を行い、福祉、保健、教育、医療の分野が連携し乳幼児期からの切れ目のない支援を行う。

もう一つは、「こども夜間救急診療所」の開設。急な発熱や腹痛などの内科症状の1次救急診療を行う。昨年度までは夕方から深夜にかけて(準夜帯)の小児1次救急診療は、平日は医師会の医療機関が持ち回りで担当していたが、日替わりのため場所がわかりにくいなどの問題があった。こうした状況を改善するために、市の中心部に近い鳩ヶ谷庁舎別棟に準夜帯の1次救急を集約し、子どもの急病時にも安心な体制が整えられた。(樋口広治)